令和5年度 放課後等デイサービス自己評価表（公表）

事業所名：みらいNO1　　評価日：令和6年3月31日

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点等
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			法令基準より広めのスペースを確保しています。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	○			児童の障害特性や職員の経験を考慮して配置をしています。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			2階までの階段には手摺（片側）を設置しています。車椅子のお子様の受け入れ予定はないためバリアフリー化の予定はありません。
業務改善	4	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			従来のミーティングに加え、ICT活用していきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者の方への匿名のアンケート（評価表）を実施し、意向把握と業務改善に取り組んでいきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			当法人ウェブサイトにて公開しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	今後の検討課題です。現在は利用者及び事業者の二者評価としています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			株式会社公文教育研究会との契約に基づき、公文式学習導入施設として、定期的に研修を受けています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			支援経過記録やミーティングでの話し合いも踏まえ、放課後等デイサービス計画を作成しています。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			ABA（応用行動分析）をベースにアセスメントをしています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			ミーティングにおいてプログラムを話し合っています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			ソーシャルスキルトレーニングではバリエーションを増やすなど工夫を凝らしています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			サービス提供時間の長さによってプソーシャルスキルトレーニングにバリエーションを持たせています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			主にソーシャルスキルトレーニングを中心に放課後等デイサービス計画を作成しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			ICT活用により、打合せ/確認しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			ICT活用により、迅速な情報共有をしています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			前回の問題点を踏まえ、ミーティングにおいて支援方法を検討/修正しています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			日々のミーティングにおいて支援内容を確認しています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	○			ソーシャルスキルトレーニングのバリエーションを増やすことで対応しています。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか			○	今後の検討課題です。経験ある職員の採用が必要だと認識しております。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			ICT活用により、より簡便化に努めていきます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	医療的ケアを要するお子様の受け入れの予定はありません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか			○	必要性に応じて対応していきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			○	必要性に応じて対応していきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			株式会社公文教育研究会との契約に基づき、公文式学習導入施設として、定期的に研修/助言を受けています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	今後の検討課題です。良い形での導入機会があれば取り入れていきます。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○			今年度より参加しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			ICT活用により、より密に共通理解に努めていきます。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っているか			○	今後の検討課題です。経験豊富な職員の採用が必要だと認識しています。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			ICT活用により、補足していきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			ICT活用でより、良い形での対応をしていきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	今後の検討課題です。ICT活用等により、良い手段があれば機会を設けていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			ICT活用により、保護者の方との信頼関係構築に努めていきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			ICT活用により、頻度を増やしていきます。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			ICT活用も検討しています。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			ICT活用により、より密な情報交換を心がけていきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			ハロウィーンでは近隣住民の方にお手伝いいただきました。今後は頻度を増やしていきます。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○		ICTを活用し、保護者の方も使いやすくなるよう準備していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			今後は防犯等様々な状況も想定した訓練を実施していく予定でおります。

非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			研修機会の確保にICTを活用しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			必要性がある児童には個別支援計画に反映させるようにしていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			保護者の方にフェイスシートをご記入いただいています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			紙媒体に加え、ICTも活用しています。